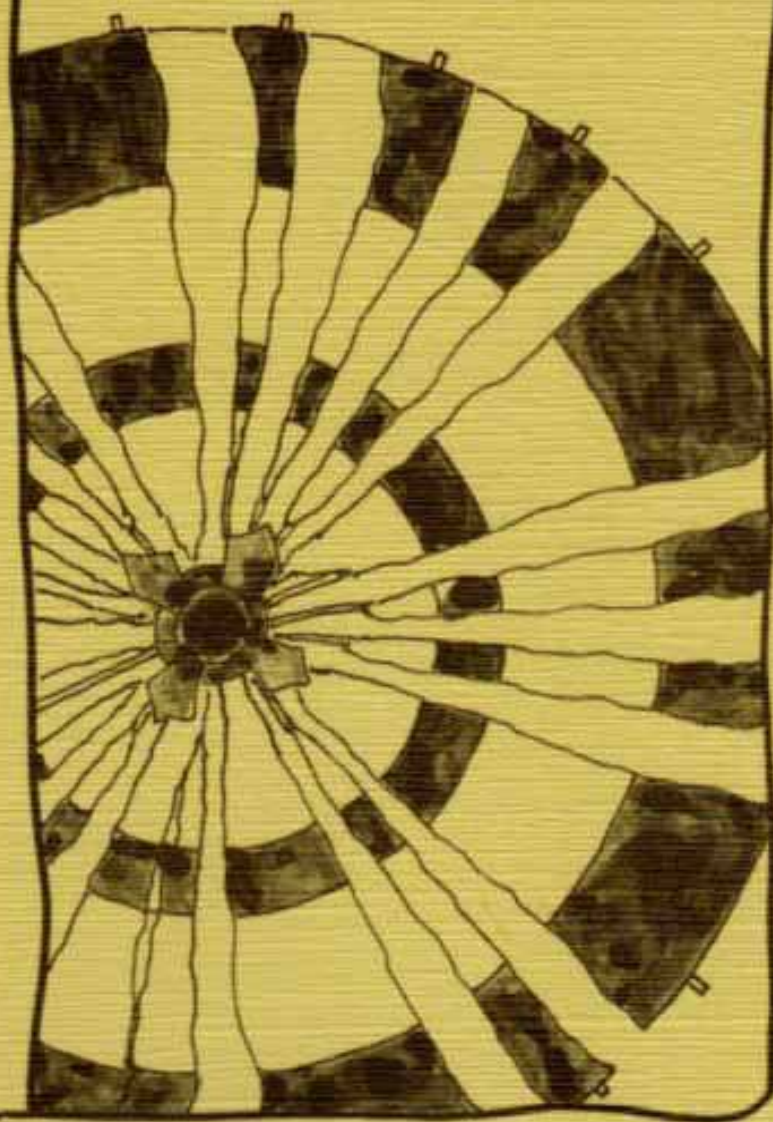


やぶれ傘



二三二号
二〇二三年四月

にはとりのこゑを近くに葱坊主	根橋宏次
花屑の二個目の小山出来上がる	さくちきみえ
自転車置き場に二台草萌ゆる	大島英昭
「昼」にする陽炎ゆれてゐる古墳	丑久保 勲
母と子がボール蹴りあふ夫ふぐり	廣瀬雅男
コーンスープ買ってミモザの下の椅子	青谷小枝
正門の右に潜り戸木瓜咲いて	瀬島酒望
梨の花咲いてほんやり昼の月	藤井美晴
雲かぶる丹沢山地母子草	渡邊孝彦
鷗尾辺りよりふはり黄の初蝶来	安藤久美子
恋猫や土手の石段下りてくる	天野美登里
どの畝も長い直線麦青む	白石正躬
ワイパーで時折ぬぐふ春の雨	秋山信行
ボクシングジムに人影春の雪	小山よる
酒蔵の醪 <small>もろみ</small> ふつつ二月来る	有賀昌子

抄集句傘ぶれや 大崎紀夫選

奥山の三角点に春の雪	柴崎和男
箱書きは父の筆跡雛飾り	高橋宜治
縮緬の端切れあれこれ吊し雛	貫井照子
あたたかや足場を外す鉄の音	中島和子
昼飯の後の眠気や春立つ日	村田 武
釣舟の増えたる日なり菜花咲く	山本久枝
春立つ日ひと駅前で降りてみる	吉田幸恵
手を握りしめて見守る野焼かな	浅嶋 肇
チューリップ花壇の縁の赤レンガ	泉 一九
足伸ばす布団の奥に猫がある	伊藤 薫
靴裏に下萌え感じランニング	江口恵子
薄氷に穴あいてゐる今日の朝	木村瑞枝
大泣きをする子が通る初桜	倉澤節子
まぎれなき友の筆跡寒見舞ひ	黒澤次郎
裏布のすこしひんやり春コート	小泉里香

牡丹の芽

大崎紀夫

蹴轆轤のまはりつづけてゐる日永
麦踏みのひとがまだゐる川向う
よくしなる釣り竿で打つ薄氷
干し物に風のきてゐる梅の花
潮引けば島がつながる磯遊び

うららかな日なり空地にからす立ち
バス停のあたりぺんぺん草やたら
沈丁の向うにトラットリアの灯
かげろふの向うで四手網あがる
助手席で雲をみてゐる目借時
しつかりと数へ牡丹の芽の五つ
一丁目二丁目さくら散つてゐる

葱坊主

根橋宏次

向かひ合ふバス停日脚伸びにけり
日向ぼこぼこんとペットボトル鳴り
白波をあらせいとうの畑より
しばらくは木箱の匂ひする巣箱
三椏の花の下まで水たまり
玄関に余所の猫ゐる雪柳
折りたたみ椅子が畑にいたちぐさ
富士塚のふもとそつくり苗木市
遠ざかることなく止んで春の雷
にはとりのこゑを近くに葱坊主

花屑

きくちきみえ

シャンパンの泡の鎮まりゆく臍
三月の魚氷にあがりさうな夜
立春の掃除機豆の音カラと
春の浜犬のリードの伸びたまま
駒返る草まで転げゆくボール
花一輪いまだ一輪日が暮れる
校庭にわづかな起伏さくら散る
ビルの間に留まつてゐる春の雲
夕桜ボールを蹴れば当たる音
花屑の二個目の小山出来上がる

蓬摘み

大島英昭

廃材がゴロゴロ梅が咲いてゐる
置いてある馬穴ゴミ箱春の畑
亀鳴いて水かげろふは揺れどほし
登り切るあたりで梅の香がきたる
ラジコンの錐もみ降下草あをむ
レジ袋提げてきてゐる蓬摘み
土くれの道に潰れてゐる余寒
永き日を五人を乗せたバスがゆく
自転車が置き場に二台草萌ゆる
金網に貼りついてゐる花の屑

鳥曇

丑久保勲

区役所の横で商ふ焼芋屋
行きつけのパン屋改装春近し
紙袋を両手に下げて春立つ日
鳥曇ぴこぴこと鳴る青信号
手の甲にぽつり雨粒梅の花
下萌えてウインナワルツラジオより
高橋の上でひと息水温む
「昼」にする陽炎ゆれてゐる古墳
地下鉄の出口人形町おぼろ
日本橋横の交番桜咲く

犬ふぐり

廣瀬雅男

すぐそこの天神様に梅を見に
盆梅の一輪咲くを縁側に
梅咲いて小さき社にのぼり旗
母と子がボール蹴りあふ犬ふぐり
蜷の道日差し真上にありにけり
補聴器を外し見上ぐる雲雀かな
たらの芽や山路はここで行き止まり
独活剥いてたつぷり味噌をつけて食ふ
履き慣れし靴に履き替へ青き踏む
満汐に乗りもどり来る花筏

葦の芽

青谷小枝

どんぐりがまだある沢のはだれ雪
石垣の角を曲がれば梅見えて
菖蒲田に名札ばかりが白き春
博物館脇の広場の花なづな
ちやんぽんにうすきかまぼこ春の昼
春寒し血圧計に腕突つ込み
町川の葦の芽はまだ水の中
戻り寒飛行機雲のぼうと解け
コーンスープ買ってミモザの下の椅子
菜の花を見に行く久留里線二輛

木 瓜

瀬島洒望

齋場の窓風花を見ると無く
円墳とおぼしき小山下萌えて
膝に付く鶯餅の粉払ふ
居酒屋で旧知の友に遭ふ余寒
春浅し貝塚試掘してゐたり
正門の右に潜り戸木瓜咲いて
日の当たるベンチはひとつ母子草
豚のゐぬ豚舎が二棟梅の花
寒戻る朝餉に卵掛けご飯
スリッパのくたびれてゐる浅き春

梨の花

藤井美晴

水音が高まつてゐる露の臺
水煙のゆるゆる暮るる鳥曇り
遅き日の広がり行ける舟の水尾
校庭にボール蹴る音雪柳
踏切を春の日傘がわたりくる
畑際の墓にたつぷり四月の日
春昼の土にくつきり枝の影
梨の花咲いてぼんやり昼の月
対岸が遠くなりつつ暮れかぬる
道ばたの祠の上の夕桜

母子草

渡邊孝彦

雛の日の日向の道を行く親娘
バス停の前の洋館櫨芽吹く
走り根の脇になづなが咲いてゐる
上枝に日下枝に風の山椿
芽吹きたる櫨のこちら側日向
キジバトがちよこちよこと来る藪椿
雲かぶる丹沢山地母子草
駐車場へ傾ぐのもあり竹の秋
囀れり商店街の店の木に
駅ビルの前の通りは花盛り

初蝶

安藤久美子

大浅蜷次々買はれあと少し
凧くるくる回る回り定まれり
草餅の二個と珈琲なるお八つ
春月のまんまる午前四時の空
沈丁花香りつばなし角までは
生垣の雪柳よりのそと猫
鴟尾辺りよりふはり黄の初蝶来
目借時ケチャップ光るオムライス
菜種梅雨行きたき場所の五つほど
花時計三色すみれ花盛り

恋猫

天野美登里

川岸の穴に亀ゐる春隣
日脚伸ぶ筒の線香煙立つ
早春の白線薄き交差点
板塀に節穴ひとつ冴かへる
露味噌や日のあるうちの縄暖簾
木の枝のガサツガサツと鴉の巢
恋猫や土手の石段下りてくる
春の樹の小さき洞に石を置く
昼のポー荒芽拾ひの馬穴さげ
やはらかき土振り落とす野蒜掘り

麦青む

白石正躬

寒波きてをり日の暮れの雲真つ赤
日脚伸ぶ朝の電車に陽が入り
日の暮れの春月かかる川の上
春の畑草片付けて積んであり
猫二匹犬を見てゐる黄水仙
鏝阿寺の裏山の木々芽吹きけり
柿若葉小枝互ひに競り合ひて
若草に幼は靴を放り投げ
初燕つばめ返しを幾たびも
どの畝も長い直線麦青む

春の雨

秋山信行

冴ゆる夜の工事現場に灯の点る
犬小屋の中は空つぽ冬うらら
ワイパーで時折ぬぐふ春の雨
石塊か石の仏か犬ふぐり
一つ摘み二つ三つとつくづくし
長靴の幅もて芋を植ゑにけり
枝雪のばさりと落ちる池の端
春昼の箱階段の脇で蕎麦
電線は峰から峰へ梅の里
外套を小脇に抱へ奥の間へ

春の雪

小山よる

ボクシングジムに人影春の雪
春浅し移動販売車に煙
春眠しまた鳴いてゐるあの鴉
春寒し自転車灯がふいに点く
鼻かんで春の闇へと投げのごみ
春暑し緩む縁石ばかり踏む
柴犬は慣れた足取り桜五分
花盛り子供は鳩を追ひかけて
カセットの回転速く春更けて
寝坊して午前十時の春日差

◇5月・6月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
5月	2日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	3日(水)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
			NHKは6月30日		
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山信行
	20日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	27日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	27日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
6月	2日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	2日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山信行
	5日(月)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン2	丑久保 勲
	6日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	17日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	18日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	WEP俳句教室	丑久保 勲
	24日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	24日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
30日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター	

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

5月5日(金)のNHKは6月30日(金)へ振り替え。

6月18日(日)の吟行。

集合 10時、JR山手線・原宿駅改札口。

吟行地 明治神宮・御苑。

句会場 WEP俳句教室。明治神宮よりタクシーで移動。

◎連絡先 秋山信行 ☎048-874-0555 藤井美晴 ☎0422-55-2733
 大島英昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎048-443-7522 丑久保 勲 ☎048-853-3856

バレンタインデーのチョコお三時に戴いて
 竜天に昇り竹林ざわざわと
 春浅き目玉運動みぎひだり
 立てかける琴はぼろんと雛の間
 ぴちやと跳び蛙水輪をつくりたる
 酒蔵の醪ふつつふつ二月来る
 掌に萎びた落の臺ひとつ
 泣くこゑも混じりて園の鬼やらひ
 立春の布袋の腹をぽんと打ち
 背を伸ばす猫の目細き春隣り

二月来る

有賀昌子